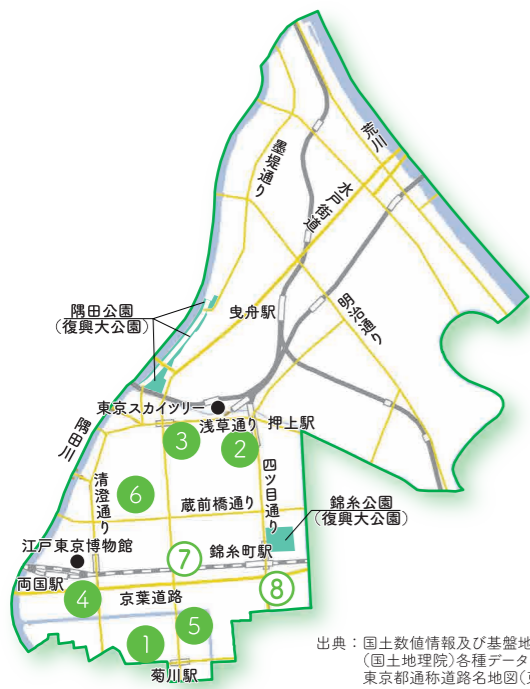


墨田区



出典：国土数値情報及び基礎地図情報
(国土地理院)各種データを加工
東京都通称道路名地図(東京都建設局)

区内では、震災復興事業により復興大公園2か所(錦糸公園、隅田公園)、復興小公園8か所が設置されたが、茅場公園が戦災復興区画整理事業により消失し、永倉公園が隣接する豎川中学校の拡張により1971年に廃止されて、現在、6か所の復興小公園が供用している。

全ての復興小公園において改修や老朽化施設の更新を重ねてきており、ほとんどの公園で開設当初の施設や意匠を見ることができないものの、広場を中心に周囲に遊具や植栽を配する施設配置の基本的な考えを見ることができる。中和公園や業平公園、若宮公園では、広場の緑陰形成を図る高木が十分な植栽間隔を保ち、ケヤキやプラタナスなどの美しい樹形が表れ、快適な緑陰空間を形成している。また中和公園と菊川公園は、隣接する校庭との一体利用を考慮してカーテンフェンスで仕切られている。

「江東公園」は「えひがし」と読まれずに「こうとう」と間違われやすいため、地元等から改称の嘆願がなされたことなどの理由から「両国公園」に名称を変更し、公園の場所が勝海舟の生誕地であったことから、石碑や銅像等を修景改修し、訪れた利用者に地域ゆかりの歴史・文化を伝承していく場所として整備している。また、業平公園では GTS 観光アートプロジェクトによるオブジェを設置し、王貞治氏のゆかりの公園として解説板を設置するなど、公園の魅力向上と周辺地域の回遊性向上を図る取組を行っている。

近年の改修では、防災トイレや土のうステーション(菊川公園等)の設置による防災機能の強化や、ボール遊び広場の設置等、新たな区民ニーズへの対応に取り組んでいる。



1 中和公園

隣接する中和小学校校庭とはカーテンフェンスで仕切られ、一体利用が可能な造りとなっている。広場にはサクラが植えられ、遊具コーナーは充実し、コンクリート製の大型すべり台がこどもたちの人気を集めている。

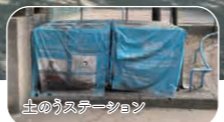
● 2,976 m² ● 1929 年開設 ● 菊川 1-18-25



2 業平公園

広場を中心に周囲に遊具が幼児用と児童用に分けて配置されている。ボール遊び広場、GTS 観光アートプロジェクトの木の葉のオブジェが設置されている。隣接する業平小学校に通学していた王貞治氏が三角ベースをしていたとされる。

● 3,339 m² ● 1930 年開設 ● 業平 2-3-2



3 横川公園

東西に細長い形状で、隣接する横川小学校とはフェンス柵と門扉で仕切られている。砂場やブランコ、すべり台、鉄棒がある。ラジオ体操が盛んで全国表彰記念碑がある。土のうステーションがある。

● 2,850 m² ● 1931 年開設 ● 東駒形 4-18-21



4 両国公園(旧江東公園)

広場を中心にコンクリート製の大きなすべり台、ブランコなどの遊具、ケヤキやイチョウ、サクラによる緑陰があり、近年に勝海舟についてより深く楽しめる歴史文化公園として改修されている。応急給水槽がある。

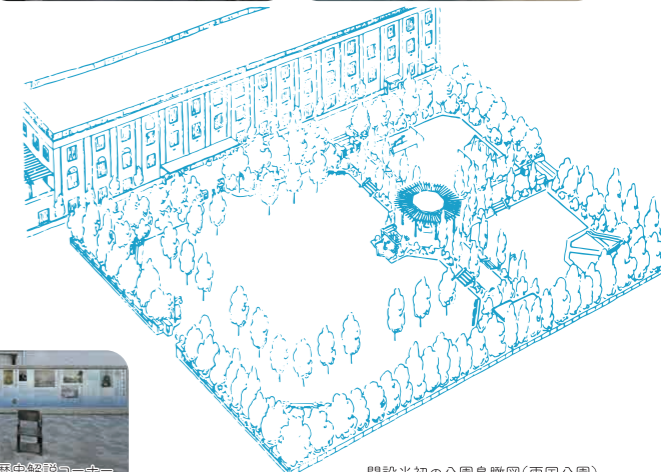
● 2,969 m² ● 1929 年開設 ● 両国 4-25-3



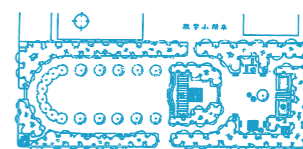
6 若宮公園

広場を中心に周囲に遊具と健康遊具を分けて配置している。適度に高木を配植し、広場と遊具の間を日陰柵で仕切るなど、緑陰を形成して憩いの場としての利用に配慮している。隣接する外手小学校とは区道を介している。

● 4,594 m² ● 1931 年開設 ● 本所 2-2-19



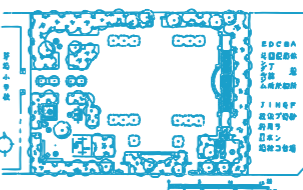
開設当初の公園鳥瞰図(両国公園)
公益財団法人東京都公園協会資料を基に作成



7 永倉公園

隣接小学校が豎川中学校に変わり、その後の校地拡大のため、1971年に廃止された。

● 2,973 m² ● 1930 年開設 ● 亀沢 4-11-2



8 茅場公園

1948年に事業決定した戦災復興区画整理事業に伴い廃止された。

● 2,984 m² ● 1931 年開設 ● 江東橋 3-8

開設当初の公園平面図(茅場公園)
公益財団法人東京都公園協会資料を基に作成

- 小学校との位置関係 I 校庭に隣接 II 校舎に隣接 III 道路が介在 IV その他
- 公園内の施設 ① 遊具 ② 健康遊具 ③ 休憩舎 ④ トイレ ⑤ 広場
- ⑥ スポーツ場 ⑦ 健康 ⑧ 水 ⑨ 池流れ・噴水 ⑩ じゃぶじゃぶ池 ⑪ ミスト
- ⑫ ピオトブ ⑬ モニタリング・オブジェ ⑭ 防災トイレ ⑮ かまどベンチ等
- ⑯ 防災井戸 ⑰ ソーラー照明灯 ⑱ その他防災施設